

| 科目           | 出題の特徴  | これからの学習ポイント   |
|--------------|--|---|
| 英語<br>リーディング | <p>—様々な場面や状況に応じた題材が取り上げられた。文章量が増加した—</p> <p>題材は昨年同様、日常的な文章や説明文など様々なものが扱われた。設問では出来事の順序を問う問題や、プレゼンテーションのスライドを完成させる問題などが出題され、昨年同様に多面的に情報を処理する力が求められた。文章量は増加したものの、難易は昨年並であった。</p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>■様々な素材が出題され、多面的なリーディング能力が問われている。「複数の情報を処理する力」や「文章の論理展開を把握する力」などを意識して伸ばしていこう。</li> <li>■限られた時間のなかで、大量の英文を読む必要がある。日頃から多種多様な英文素材を短時間で読解する練習をしておこう。さらに、複数の英文と図表の内容を組み合わせるといった情報処理をすばやく行うような学習もしておこう。</li> </ul>  |
| 英語<br>リスニング  | <p>—昨年同様、場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた—</p> <p>昨年に続き、音声情報とイラストや図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が出題された。場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われた。講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な問題もみられたが、全体的に取り組みやすく、昨年よりやや易化。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■音声情報から具体的な状況やイメージを頭の中で思い浮かべられるかどうかポイントなので、話し手の意図や場面を意識しながら、音声を聞く必要がある。</li> <li>■今後も、音声情報と図表などの視覚情報をもとに解答したり、複数の情報を整理・判断したりするなど、多面的に情報を処理することが求められると予想される。重要な情報を逃さずに聞き取ることができるよう、メモを活用して短時間で情報を整理する練習を積むとよいだろう。</li> </ul>  |
| 数学<br>I・A    | <p>—三角比の表を利用する現実事象の問題が出題された—</p> <p>第1問[2]「図形と計量」では、太陽高度などを利用して、電柱の高さやその影の長さを求める現実事象の問題が出題された。第3問「場合の数と確率」は、昨年に引き続き、前設問の求め方などを利用して解いていく問題が出題された。解法の方針が立てにくい問題が多く、昨年より難化。</p>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>■共通テストでは、ただ計算して答えを求めるだけでなく、長い問題文の中から解くうえで必要な情報や、次の設問のヒントとなる部分がどこかを判断しながら解き進める必要がある。限られた時間の中で、問題文から必要な情報を素早く、正確に抜き出す訓練を積んでおきたい。一方で、題意が理解しにくい問題や、解法がすぐに見いだせない問題は飛ばし、他の問題に着手するといった時間配分を意識することも重要である。</li> <li>■基本的な問題で確実に得点を重ねられるよう、各分野の定理・公式の定着を確認するような問題の演習は必須である。教科書をもとに例題などの基本的な問題を解けるようにすることはもちろん、定理・公式は成り立ちも含めて理解しておきたい。</li> </ul> |
| 数学<br>II・B   | <p>—本試験で初めて「式と証明・複素数と方程式」を主題とした問題が出題—</p> <p>第1問[2]は、「式と証明・複素数と方程式」からの出題で、条件から何が導かれるか、論証の正確な理解に関する目新しい設問があった。第2問「微分法・積分法」は、定積分と面積に関する本質的な理解が問われ、後半は抽象的な設問が続くため、取り組みにくかったであろう。昨年よりやや難化。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■文章量が多い問題を解く際は、情報を素早く正確に整理し、効率的に問題を解き進めることが重要である。そのため、解答に必要な情報はどこに書かれているか、読みかえることができる条件は何か、などを意識して問題から読み取れる情報を丁寧に処理するようにしよう。</li> <li>■共通テストと言えども、教科書レベルの基本的な問題も出題されている。教科書に掲載されている公式や定理を、単に暗記するのではなくその公式の成り立ちや定理の証明なども含め理解しておこう。その基礎となるのが授業であるから、日ごろの授業を大切にしよう。</li> </ul>  |

| 科目   | 出題の特徴   | これからの学習ポイント   |
|------|---|---|
| 国語   | <p>—推敲や鑑賞などの「言語活動の充実」を意識した設問が出題された—</p> <p>全大問で複数のテキストが提示され、全体の分量はほぼ昨年並。第2問問1、第4問問1などの知識事項を問う設問が出題された一方で、第1問問6の〈推敲〉、第4問問6の〈鑑賞〉など、「言語活動の充実」を意識した、応用的・発展的な思考力が求められる出題が全大問で見られた。昨年より易化。</p>                              | <p>■令和7年度より、大問数の追加（4大問から5大問への変更）、試験時間の10分増加が公表されているが、言語活動の場面を想定した設問や、複数のテキストを比較・関連付ける応用的・発展的な思考力を問う設問は引き続き出題されると考えられる。本文の構成や展開を的確に捉え、論旨や内容を正確に読み取る力に加えて、複数のテキストの関連性を捉える力や、文章の根底にあるテーマ、文章が書かれた目的、表現の意図にまで着目して、深く考える力が求められる。</p>              |
| 世界史B | <p>—資料読解と基本的な知識を組み合わせる思考力が求められた—</p> <p>大問数は5から4に減少し、解答数は34個から33個に減少した。連動型の問題が出題された。昨年と同様に文献資料やグラフが多く出題され、基本的な知識と組み合わせで考察する力が求められた。難易は昨年並。</p>  | <p>■歴史総合では、近現代の歴史について、資料の読解を通じて、その背景にある出来事の類推や、概念的な用語の理解が求められる。</p> <p>■世界史探究では、基本的な知識をもとに、因果関係や共通点・相違点などに着目しながら、歴史上の出来事同士を相互に関連づけて考察する力が求められる。資料を活用し、歴史上の出来事を多面的・多角的にとらえる視点を意識して学習に取り組みたい。</p>   |
| 日本史B | <p>—「印刷の歴史」「古代の食物」と身近な題材続々。読解力と情報活用力重視の出題—</p> <p>大問数、解答数に変更はなかった。8世紀から明治にかけての印刷の変遷、古代の食物や調理道具など、日常生活に関するトピックから出題が展開。文章資料に加え、統計グラフ、写真など多彩な資料を通じ、読解力が引き続き求められた。受験生が苦手とする、時期の判断を要するものに加え、知識の定着を前提にした出題も多く、昨年よりやや難化。</p> | <p>■歴史総合では、近現代の歴史について、資料の読解を通じて、その背景にある出来事の類推や、概念的な用語の理解が求められる。</p> <p>■日本史探究では、史資料の読解力増強に向け、教科書や資料集などでさまざまな史資料に慣れ、史資料から読み取れることを自分でまとめるなど、ポイントや主旨を把握する訓練を重ねることが大事である。加えて、さらなる探究や疑問の検証など、探究の仕方、調べ方の観点についての理解も深めておきたい。</p>                    |
| 地理B  | <p>—現代の地理的事象について、確かな知識に裏づけられた思考力が求められた—</p> <p>地図や統計表、写真などを含む多様な資料が用いられ、限られた時間のなかでの図表読解力と地理的思考力が問われた。基礎的な知識をもとに判断できる問題も多く、知識と現実の地理的事象を結びつけて定着させている受験生にとっては考察しやすかったであろう。難易は昨年よりやや易化。</p>                               | <p>■地理総合では、地理に関わる事象について、基礎的な知識をもとに初見の資料を読み解くことや具体と抽象を結びつけて考えることとともに、諸課題をとらえることや解決策を考察することも大切である。</p> <p>■地理探究では、地理総合での学習を踏まえ、原理・原則から地理的事象をとらえる理解力と複数の事項を結びつける思考力が重要となる。単に知識を覚えるだけでなく、「なぜ、そうなるのか」という視点を意識しながら要因を考察していき、概念やメカニズムの理解を深めたい。</p> |

| 科目           | 出題の特徴   | これからの学習ポイント  |
|--------------|---|--|
| 倫理           | <p>—選択肢の数と文章量が増え、資料の内容や趣旨をとらえる力の問い方に工夫がみられた—</p> <p>大問構成や出題分野は昨年同様であった。組合せ問題では8択が大幅に増加し、7択、9択も昨年同様出題された。知識や読解力、判断力などを組み合わせて問う多面的・多角的な出題が増加したため、受験生は解答に時間を要しただろう。難易は昨年並。</p>                         | <p>■公共では、基本的な知識に加え、会話文や統計などの多様な資料を読み取る技能や、与えられた立場や条件・観点から論理的に考察する力が求められる。</p> <p>■倫理では、思想家や思想内容の意味を理解し、文章を読解する力が必要とされる。また、人間としてのあり方・生き方について考えるとともに、現代社会の課題をめぐって対立する立場、それぞれの主張の論理的な根拠を理解し、具体的な事例とともに考察しておこう。</p>  |
| 政治・経済        | <p>—読解力や計算力が求められ、解答に時間を要する問題が目立った—</p> <p>「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中3大問で出題された。経済分野からの出題が増加し、国際政治分野・国際経済分野の出題が減少した。全大問において、文献・判決文・統計・模式図などの多様な資料を読み解く力や、計算が求められる出題が目立ち、差がついたと思われる。昨年より難化。</p>            | <p>■公共では、基本的な知識に加え、会話文や統計などの多様な資料を読み取る技能や、与えられた立場や条件・観点から論理的に考察する力が求められる。</p> <p>■政治・経済では、幅広い分野の学習事項について正確に理解していることを前提としながら、その知識を設問文や資料で与えられた条件や設定から想起し、応用する力が求められる。概念や原理・原則などの抽象的な学習事項は、具体的な事例や制度に関連づけて理解を深めておきたい。</p>  |
| 現代社会         | <p>—政治分野の出題が増加。具体的事例から知識を問う現代社会らしい出題—</p> <p>政治分野からの出題が増加した。昨年同様、全での大問で生徒の活動場面が題材となり、学習した事項を具体的な事例に関連づけて考察することが求められた。文献や統計、模式図など様々な資料が使われ、多くの情報を効率よく読み解く必要があった。文章選択問題が減少し、8択の組合せ問題が増加した。難易は昨年並。</p> | <p>■公共では、基本的な知識に加え、会話文や統計などの多様な資料を読み取る技能や、与えられた立場や条件・観点から論理的に考察する力が求められる。</p> <p>■政治・経済では、幅広い分野の学習事項について正確に理解していることを前提としながら、その知識を設問文や資料で与えられた条件や設定から想起し、応用する力が求められる。概念や原理・原則などの抽象的な学習事項は、具体的な事例や制度に関連づけて理解を深めておきたい。</p>  |
| 倫理、<br>政治・経済 | <p>—昨年に引き続き正確な知識と資料の読解が必要。具体例の考察も求められた—</p> <p>すべての設問が単独科目「倫理」および「政治・経済」と共通であった。昨年同様、倫理分野では、資料の読み取りと知識の組合せが問われ、政治・経済分野でも、文章資料や統計など多様な資料を読み取り、正確な知識を活用して考察する問題がみられた。難易は昨年並。</p>                      | <p>■倫理では、思想家や思想内容の意味を理解し、文章を読解する力が必要とされる。また、人間としてのあり方・生き方について考えるとともに、現代社会の課題をめぐって対立する立場、それぞれの主張の論理的な根拠を理解し、具体的な事例とともに考察しておこう。</p> <p>■政治・経済では、幅広い分野の学習事項について正確に理解していることを前提としつつ、その知識を設問文や資料で与えられた条件や設定に関連付けて想起し、応用する力が求められる。概念や原理・原則などの抽象的な事項は、具体的な事例や制度に関連づけて理解を深めておきたい。</p> |

| 科目   | 出題の特徴   | これからの学習ポイント   |
|------|---|---|
| 物理基礎 | <p>—ジャガイモの浮力や音の速さに関する実験など、探究的な出題があった—</p> <p>ジャガイモを水中に沈める実験を題材に、上下二つのはかりで得たデータをもとに浮力を考察させる問題や、空気中を伝わる音を題材に、三つの方法で測定した音の速さを考察させる問題など、探究的な出題がなされた。LED電球の変換効率を推定する問題は、今日の環境エネルギー問題を意識させる。難易は昨年並。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日常の場面でみられる事物・現象について、教科書にある物理法則や公式と関連づけて、定性的、定量的に考察する習慣をつけておこう。また、身のまわりの物理現象についてディスカッションをするなど、物理基礎で学習した内容がどのような場面に関連しているのかを意識するようにしよう。</li> <li>■ 授業などで実験をする場合には、実験の設定や操作、結果にどのような意味があるのかを考察したり、仮説を立てて検証する習慣も身につけよう。また、データ処理やグラフの表し方・読み取り方についても身につけるとともに、実験の結果について比較・分析するなど、論理的に考察する経験を積んでおこう。</li> </ul> |
| 化学基礎 | <p>—宇宙ステーションの空気制御システムを題材とした問題が出題された—</p> <p>第1問では、昨年同様に基本的な問題が小問集合形式で出題された。グラフを読み取り計算する、思考力を要する問題があった。第2問では、宇宙ステーションの空気制御システムにおける化学反応が取り上げられた。反応の量的関係について、化学反応式の係数を利用する問題が複数あった。難易は昨年並。</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教科書で扱われている知識事項を細部までしっかりと身につけることが有効である。教科書の本文中にある用語だけではなく、図・グラフまで丁寧に確認しておこう。また、教科書で扱われている化学反応が表す意味を理解し、各分野の現象と結びつけて理解しておこう。</li> <li>■ 問題文の概要を把握して解答する問題や、図やグラフから読み取った情報と知識を関連づけて考察する問題など、さまざまな種類の問題演習に取り組み、読解力や思考力を養おう。</li> </ul>   |
| 生物基礎 | <p>—教科書の内容を中心として、知識を活用する問題が多く出題された—</p> <p>知識を活用する力、実験結果を論理的に考える力、グラフを読む力を問う問題が出題され、基本的な知識そのものを問う問題もみられた。昨年と比べ、全体のページ数や文章選択問題は増加したものの、正解に至るうえで考察する要素が少なくなり、正解選択肢も判断しやすいものが多く、昨年より易化。</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教科書に掲載されている重要用語は、単に覚えるだけでなく、意味を理解して、さまざまな場面で活用できるようにしておこう。また、日々の学習で扱った観察・実験は、「どうしてその結果が出たのか」、「どうして結果からその結論が導かれたのか」という疑問をもつことを意識しよう。</li> <li>■ 設問文や図・グラフで与えられた情報と「生物基礎」の知識とを関連づけて考察する問題や、問題文の内容を把握して論理的に考察する問題など、さまざまな種類の問題演習に取り組み、思考力を養おう。</li> </ul>   |
| 地学基礎 | <p>—軽石の漂流のようすから海流の速さの違いを考える問題が出題された—</p> <p>第2問では、台風が接近した際の天気図を日付順に並べる問題が出題された。第4問では、海底火山から噴出した軽石の漂流のようすから、二つの海流の速さの違いを考える問題が出題された。基本的な知識、時間的・空間的関係の理解、思考力・判断力を問う幅広い問題が出題された。難易は昨年並。</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ さまざまな事象の時間的・空間的関係を意識し、教科書の基本的な内容をまんべんなく身につけておこう。また、図やグラフから必要な情報を読み取る力をつけるために、資料集や図説などを用いていろいろな図に触れることを心がけ、文章や数値で書かれたものを図や表の形にまとめてみよう。</li> <li>■ 自然災害、環境問題や日々の気象について、学習した内容との関連を考えてみよう。このとき、具体的な数値を用いて地震波や火砕流などの到達に要する時間を考察したり、日々の天気の移り変わりを天気図と対応づけたりしてみよう。</li> </ul>                                   |

| 科目 | 出題の特徴   | これからの学習ポイント  |
|----|---|--|
| 物理 | <p>—ペットボトルロケットなど、探究活動についての問題が増加した—</p> <p>ペットボトルロケットの運動、金属線を用いた弦に交流電流を流したときに生じる弦の固有振動、導体紙上に生じる電場など、設定の把握に時間を要する探究的な問題が出された。太陽の中心部にある原子核を題材として、原子核1個あたりの運動エネルギーを問う問題は目新しい。難易は昨年並。</p>                  | <p>■グラフを読み取って考察する問題は、今後も出題が予想される。日ごろから、物理量の関係をグラフに表すことや、グラフから読み取れる情報をもとに、推測・判断する経験を積んでおこう。</p> <p>■日ごろから探究活動に積極的に取り組むようにしよう。また、実験の授業では、得られた結果を考察し、基本的な物理法則と結びつけることを意識することで、より深い理解に繋がられるようにしておこう。</p>   |
| 化学 | <p>—図やグラフを利用した問題が多く、質量分析法を扱った問題が目新しい—</p> <p>文章を読み解く問題、図やグラフを読み取る問題が数多く出題され、読解力と思考力を要した。教科書では扱わないアスタチンの性質、ニッケルの製錬法に関する問題が出題された。また、医薬品に関わる内容を題材にした問題が多数出題された。質量分析法によるデータの読み取りを題材にした問題が目新しい。昨年より易化。</p> | <p>■教科書の本文中にある用語や原理・法則を細部までしっかりと身につけることが重要である。教科書の本文中にある用語は確実におさえたい。図やグラフとのつながりや他分野とのつながりを意識しながら正確に理解しておきたい。</p> <p>■共通テストでは、見慣れない実験の原理や操作についての問題、実験結果から考察する問題などが今後も出題されると考えられる。まずは教科書で扱われている実験について、原理や操作の意味、結果から導かれる事柄などを確実におさえよう。また、問題文や図・グラフを素早く正確に理解する力を養っておこう。</p>                |
| 生物 | <p>—さまざまな分野から、知識と思考力がバランスよく問われた—</p> <p>全6大問必答で、昨年と同様、複数の大問で分野融合問題が出題された。与えられた情報をふまえて初見の実験結果を予想したり、分析したりする問題がみられた点は昨年と同様であったが、問題を解くうえで処理する情報量は減少し、昨年より易化。</p>   | <p>■既知の学習内容だけでなく、初見の図表やグラフなどが多く扱われ、さまざまな情報を読み取り考察する力が求められる。そのため、教科書に記載されている事項は、分野どうしのつながりを意識して身につける必要がある。また、教科書で扱われている実験は手順の理解なども問われるため、丁寧に理解しておきたい。</p> <p>■共通テストでは、実験考察問題だけでなく、グラフの解釈やシミュレーションの結果を推測・考察する問題なども出題される。目新しい形式に戸惑わないように、日ごろから探究活動に積極的に参加し、さまざまな資料に触れる機会をもつようにしておきたい。</p> |
| 地学 | <p>—複数の図表を組み合わせて考察する問題が多く出題された—</p> <p>第1問ではさまざまな分野からグラフを用いた問題が出題された。表を用いて未完成のグラフを完成させ、さらに考察する問題は目新しい。第2問～第5問でも図から読み取れることから知識とを組み合わせて考察を行う問題が多く出題されたが、必要とされた知識は標準的であった。昨年より易化。</p>                    | <p>■図やグラフを用いた考察問題は、今後も出題が予想される。図やグラフから必要な情報を読み取る力をつけるために、教科書や図説の図やグラフからどのようなことが読み取れるのか考えることを心がけよう。また、文章や数値で書かれた情報を、自分で図や表の形にまとめ直してみよう。</p> <p>■教科書に掲載されている基本的な内容をまんべんなく身につけておこう。このとき、地学基礎の関連事項も合わせて確認しよう。そのうえで、共通テストの過去問に加えて模擬試験も活用し、さまざまな図表と知識とを組み合わせて問題を解く練習を重ねておこう。</p>             |